



# 青山学院中等部

Aoyama Gakuin Junior High School

## 入学式

今年は何年になく寒い四月でしたが、桜はその寒さに耐えるかのように一週間にわたり枝に花びらを漉せていました。

## 第六十四回入学式告辞

ペテロ一章八〜十二節

中等部長 山本 与志春

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎します。新入生の保護者・ご家族の皆様おめでとうございます。新入生の皆さんをお祝いするために、緑窓会の役員の皆様、中等部後援会の役員の皆様がお出で下さいました。また青山学院の松澤建理事長先生をはじめ、青山学院の大きな責任を担って下さっている皆様も、大勢お出でいただきました。これは、青山学院に関わるすべての方が、皆さんの入学を歓迎しているということです。ありがとうございます。

さて、先ほど皆さんの名前をお呼びしました。青山学院の宣教師と宗教主任の方々は、皆さんの名前が呼ばれる度に、皆さんに神様の祝福があるようにと、心の中でお祈りして下さいました。

現在、青山学院には三人の宣教

師がいらつしゃいますが、青山学院はスクーンメーカー、マクレイ、ソーパー三人の宣教師によって開かれた三つの学校が源流となり、今年で一三六周年を迎えました。

三人の宣教師は、自分の命の危険を恐れることなく日本に渡ってこられました。そして、たった七人の生徒で始まった学校が、今は二五、〇〇〇名が学ぶ総合学園となりました。この三人の宣教師の信仰・多くの人々の祈りや捧げ物、そしてなにより神様の祝福によって、今日の青山学院があります。

青山学院の土地を捧げて下さったガウチャー博士と、三人の宣教師のレリーフは本部ベリーホール前にあります。青山学院はこの三人の宣教師の時代から変わることなく、キリスト教信仰による教育を受け継いでいます。中等部で一番大切な時間は礼拝だと言って

いるのは、このゆえです。

新入生の皆さんは青山学院中等部の六十四期生ですが、さきほどの讃美歌「飼い主わが主よ」は、第一回の入学式で賛美された曲です。初代部長古田十郎は、言論の自由が制限されていた戦時中にも、自由があったといわれる、青山学院中学部の教師でした。そこで古田部長は戦後、中等部を開校するにあたって、自由で伸びやかな学校、男女平等、本物をぞんぶんに与える教育を目指しました。

現在の中等部の自由な雰囲気・明るさは、戦前の中学部の時から受け継がれているものです。そして、皆さんは、男女の別なく、名前の順に呼ばれましたが、これも男女平等を大切にしたい、第一回の入学式からの伝統です。中等部が大切にしてきた伝統を皆さんも受け継いで下さい。

次に、皆さんは名前を呼ばれて、元気に返事ができました。希望や期待がたくさんあるのだろうと思います。中等部に入ったらクラブ活動をしたい。英語を上手に話せるようになりたい。友達をたくさんつくりたい。もっと勉強をしたい。このなにかをしたいという気持ちがあることはとても

もよいことです。色々なことに興味や関心があり、してみたいこと、期待や希望がある。それが、皆さんを動かすエネルギーとなります。自分がしたいこと・興味があること、自分の希望を大切にしてください。「未来は、皆さんの手の中にあります。」これは、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世の言葉です。皆さんの希望は、皆さんの未来は、皆さんの手の中にあります。ですから、自分自身で追い求めて下さい。希望を簡単に諦めてはなりません。自分がしたい色々なことに一生懸命チャレンジして下さい。それは、自分に与えられた才能を充分に発揮することです。したいと思っても手をこまねいて、なにもしないならば、せつかく与えられた才能を開花させることなく、無駄にしまいます。それは、大変もつたいないことで、才能を授けて下さった神様が悲しむことです。半田正夫院長代行がお話された「地の塩、世の光」としての自分の役割・使命をみつけるためにも、自分のしたいことを追い求めて下さい。私たち教職員は全員で、皆さんが元気に安心して中等部で学び、ベストを尽くせるように祈り、サポートします。た



だし、それは皆さんが失敗しないようにするためではありません。転ばないようにするためでもありません。失敗や挫折から学ぶことは、多くあります。転ぶことで、痛みを知り起き上がり方を学び、危険を察知することを学びます。皆さんが自分では起き上がれない時に、助けを求めて下さい。私たちは、直ぐに側にいつて支えます。ですから、失敗を恐れずおおいに挑戦して下さい。皆さんに与えられている才能は、磨かれることよって光を放ちます。皆さんが最善を捧げることが神様は喜ばれ、大いに祝福して下さい。最後に、皆さんが中等部で出会う友人は、皆素晴らしい人たちで

す。よい友達のを輪を広げて下さい。勉強が得意な人、スポーツが得意な人、芸術的な才能をもった人がいます。大変優しい心をもった人がいます。それぞれ特徴をもった個性の違う人です。その中で、自分とは波長が合わないなあ、違うなあと思う人がいるかもしれない。自分と違うなと感じたら、その人は自分とは違う賜物をもった大切な人なのです。カルロス・ゴーン会長は、国際人として、最もファンダメンタル（基礎的）で重要なことは、異なる相手の習慣・伝統をリスペクト（尊敬）することですと語りました。友達との関係も、お互いに違いを認め合いい助け合うことが大切です。違いは、間違いではありません。今日の聖書の言葉も、私たちが自分とは異なる考え方を持った人と、平和に過ごす生き方が示されています。「皆心を一つにし、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。悪をもつて悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。」（ペトロの手紙Ⅰ三章八〜九節）自分に敵対する人であっても、受け入れ大切にすることが、勧められています。

スポーツのチーム内で、自分を棚に上げ、お互いの弱さをけなしあつていては、個人の力もチームの力も伸びません。お互いが、弱さを助け合おうとしたとき、どうしたら良いのかという知恵が生まれます。チームの弱さを自分がカバーしようとするときに、自分の足りなさ、努力すべき点が見えてきます。すると個人の力も、チームの力も向上するのです。中等部で学ぶことは、競争ではなく協力ですと言っているのは、このために努力することより、他の人のために働こうとするときの方が、遙かに大きな力が湧いてきます。遙かに多くの知恵が生まれます。人のために生きることを喜びとする。喜んで他の人と共に生きる生き方を学んで下さい。それが、中等部で学ぶ目標です。みんなが平和に楽しく過ごす秘訣です。今日入学した皆さんが、自分の使命、自分の光を探し求めることが出来ますように。そして、お互いの違いを尊敬し、人のために生きることを喜びとすることが出来ますように、お祈りし、告辞いたします。入学おめでとうござい